

1 主題 友達っていいな（友情、信頼）

2 指導の立場

＜子どもの実態から＞

この時期の子どもは、幼児期の自己中心性から十分に脱しておらず、友達の立場を理解したり、自分と異なる考えを受け入れたりすることが難しいことも少なくない。しかし、学級での生活を共にしながら一緒に勉強したり、仲よく遊んだり、困っている友達のことを心配し助け合ったりする経験を積み重ねることで、友達のよさをより強く感じるようになる。本学級の子どもにおいても、休憩時間に友達と仲よく遊んだり、友達のために行動したりする姿が多く見られる。このような経験をしている子どもに、友達がいることのよさを改めて捉え直させることで、身近にいる友達と一緒に仲よく活動することのよさや楽しさをより実感することができる。そこで、次のような主題を設定する。

＜主題について＞

本主題は、友達と進んで関わり、仲よくしようとする心情を育てることをねらっている。ここでは、友達がいることのよさについて、多面的・多角的に話し合いながら、友達と一緒に仲よく活動することのよさや楽しさに改めて気付くことが大切である。そこで、教材「こころはっぱ」を読み、いのししくんが三匹と友達になれたときの気持ちを基に、友達がいることで心の中の色も鮮やかに変わっていく「こころはっぱ」の変化の様子や理由について話し合わせる。このような活動を通して、子どもは、友達がいることで日常生活がより豊かになることについて考えを深め、友達と進んで関わり、仲よくしようとするのが大切であることに気付くだろう。

そのような学びを実現するために、指導にあたっては、次の点に留意する。

＜指導上の留意点＞

- 導入では、友達と活動している日常の写真を提示する。そうすることで、友達がいることのよさを客観的に捉えることができるようにする。また、友達がいないとどんな気持ちになるかを対照的に問うことで、友達がいることのよさに焦点化して考えることができるようにする。
- 展開では、いのししくんや三匹の関係が変化することで、「こころはっぱ」の色がどのように変化したかを視覚化できるようにする。そうすることで、友達との関係がよりよいものになると、「こころはっぱ」が変化することに気付くことができるようにする。
- 話し合いの際に、「友達がいるからこころはっぱの色が変わるのか」「こころはっぱはどこにあるのか」を問い返す。そうすることで、友達の存在を基に、友達と一緒に仲よく活動すれば「こころはっぱ」の色が変化し、それに伴って自分の心の在り様も変化することに気付くことができるようにする。
- 終末では、友達がいることのよさについて、話し合う活動を設ける。そうすることで、友達との関係がよりよいものになればなるほど、学校生活が楽しく明るいものになることに気付くことができるようにする。

3 教材のあらすじ

「こころはっぱ」	
出典：東京書籍「新編あたらしいどうとく1」	
いのししくんは、いつも一人ぼっちで「ともだち、ほしいなあ」と寂しそうにしている。そんないのししくんの様子を、木の上から見てたうさぎちゃん、たぬきくん、きつねくんの三匹は、いのししくんに「友達になって」「一緒に遊ぼう」と声をかける。いのししくんは、三匹の動物と関わることで、新しい友達ができる喜びを感じる。この話を通して、いのししくんの心の声が、「こころはっぱ」という木の葉の色で表現されている。	

4 指導計画（主として人との関わりに関すること 「友情、信頼」に関する指導）

1 年 (本時)	主題：友達っていいな	教材名：こころはっぱ
	「こころはっぱ」の色が変わる理由について話し合う活動を通して、友達の三匹といのししくんの関係の変化を基に、友達と一緒に仲よく活動することのよさや楽しさに気づき、友達と進んで関わり、仲よくしようとする心情を育てる。	
1 年	主題：友達を思う心	教材名：二わのことり
	みそさざいがやまがらの家へ行った理由について話し合う活動を通して、友達の存在を大切にすることのよさや難しさに気づき、友達と仲よくし、助け合おうとする心情を育てる。	
2 年	主題：助け合う友達	教材名：森のともだち
	こんきちの心情の変化について話し合う活動を通して、友達と仲よくし、助け合うことのよさや難しさに気づき、友達と助け合おうとする心情を育てる。	
2 年	主題：友達を思って	教材名：ともだちやもんな、ぼくら
	「ともだちやもんな、ぼくら」に込められた思いや考えを話し合う活動を通して、友達を思うことの大切さに気づき、友達と仲よくし、助け合っていこうとする判断力を育てる。	

5 本時案

(1) ねらい 「ころはっぱ」の色が変わる理由について話し合う活動を通して、いのししくんと三匹の関係の変化を基に、友達と一緒に仲よく活動することのよさや楽しさに気づき、友達と進んで関わり、仲よくしようとする心情を育てる。

(2) 準備 挿絵、色鉛筆

(3) 学習の展開

学習活動・内容	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
1 友達がいることのよさについて話し合う ・友達がいることのよさ	ア 一緒に遊ぶと楽しいね イ 困っているときに、友達に助けてもらったことがあるよ ウ 友達がいないと不安な気持ちになってしまうよね	・ 友達と活動している日常の写真を提示することで、友達がいることのよさを客観的に捉えることができるようにする。	5
2 範読を聞き、問いを交流する ・「ころはっぱ」の変化の理由	ア いのししくんが嬉しくなつて、「ころはっぱ」は何色に変わったのかな イ どうしていのししくんの気持ちが変わると「ころはっぱ」の色も変わるのかな	・ 「ころはっぱ」を白黒にした絵を提示することで、「ころはっぱ」の色に着目して考えることができるようにする。	10
3 葉っぱの変化の様子や理由について話し合う ・友達がいることのよさ ・相手の気持ちを考えることのよさや難しさ	ア 「ころはっぱ」の色を変えたのは、三匹が友達になったからだと思うよ イ 三匹が声をかけて、いのししくんが嬉しくなったからだと思うよ ウ いのししくんと三匹が友達になって、いい気持ちになったから葉っぱの色が変わったのだね エ 「ころはっぱ」は、自分の心の中であって、友達と仲よく遊ぶことで色が変わるのだね	・ 葉の色が何色に変わったのか、想像させることで、いのししくんや三匹の心の中も明るくなったことに気付くことができるようにする。 ・ 葉の色の変化の理由について問い返すことで、友達がいるからではなく、友達と仲よく活動することで変化することに気付くことができるようにする。	35
4 友達がいることのよさについて話し合う ・友達の存在が与える影響	ア 友達といるから学校が楽しいよ。一人で遊ぶよりももっと楽しく感じるよ イ 友達といることで毎日が明るくなるよ。これからも仲よく過ごしたいな ウ 友達といるっていいことだね	・ 友達がいることのよさを改めて問うことで、単に友達がいることで学校生活が楽しくなるのではなく、友達と一緒に仲よく活動することで楽しくなることに気付くことができるようにする。	45

(4) 評価の視点と方法

友達と進んで関わり、仲よくしようとすることのよさについて、多面的・多角的に考えようとしたり、自分自身との関りの中で深めようとしたりしていたか発言やノートの記述からみとる。

<メモ>